

ワールドカップ1戦（ベオグラード、セルビア）NTO 参加リポート

東京都ボート協会所属
国際審判員 山崎 佳奈子

はじめに

平成30年5月30日（水）から平成30年6月4日（月）まで、セルビアベオグラードで行われたワールドカップ1戦に National Technical Officials として研修参加させていただきましたので、以下ご報告させていただきます。

大会概要

日 時：平成30年6月1日（金）～6月3日（日）

コース：Ada Ciganlija Regatta Venue ベオグラード、セルビア

今回のコースは「サヴァ川」という元々川だった所を堰き止めた人工湖である。カヤック、カヌーと共有しているが、普段は市民の憩いの場の公園となっており、レンタサイクルでサイクリングしたり、ヨガを行ったりしている。海のないセルビアでは、海水浴のかわりにこの川で泳いでおり、両岸にはカフェもあり、雰囲気的にはお台場のようなイメージである。

事前練習が始まっていたが、ボートがコースを漕ぐ横を海水浴客がコースに入ってくるなど、普段では見られない光景が見られた。

公園の中がコースになっているため、IDカードを持っている人のみコースに入れるよう、フェンスで区切られていて、ガードマンが常駐していた。（業者かOC関係者かは不明）



審判員他

President of Jury : Dane Luzaic (Serbia)

Jury : 18名

David Grubits (AUS) Karin Schuster (AUT) Chunxin Chen (CHN) Goran Fruk (CRO) Kasper Haagensen (DEN) Rasha Adbel Hamid (EGY) Nicolas Parquic (FRA) Domenico Lananna (ITA) Daisuke Nakajima (JPN) Inga Daukantiene-Okuleviciene (LTU) Laurens Van Campen (NED) Sergio Viacava (PER) Przemyslaw Knigawka (POL) Rodica Macovei (ROU) Borut Golob (SLO) Maximilian Schubiger (SUI) Per Bjornskiold (SWE) Halil Yilmaztuerk (TUR)

NTO : 24名（うち Serbia8名、他国16名）

Ana Nikolic (Serbia, **NTO Lead**) Ruzica Karajovic (Serbia) Dragana Pusonjic (Serbia) Ljubica Pejic (Serbia) Tajana Nusic (Croatia) Phillip Rendulic (Croatia) Aleksa Suvacarow (Serbia) Mladen Kostic (Croatia) Darko Golob (Slovenia) Judit Meszaros (Hungary) Anna Widun (Poland) Niksa Skelin (Croatia) Marko Milacic (Serbia) Angela Alonso Fernandez (Spain) Tijana Milosevic (Serbia) Kaj de Vries (The Netherlands) Paul Tonnerre (France) Marta Marszalek (Poland) Giuseppe Cudia (Italy) Eva Stegmayer (Hungary) Elisabeth Smetana (Austria) Tijana Milosevic (Serbia) Nevyana Bakardyhieva (Bulgaria) Kanako Yamazaki (Japan)

NTO 部署割 (大会期間中) : ※は大会前にも配置

- ① NTO リーダー 1名※
- ② Control Commission Oversight (監視全体管理) 1名
- ③ C.C. Outgoing (出艇棧橋監視) 2~3名 ※1名
- ④ C.C. Lane Selection (アスリートレーンセレクション管理補助) 2名
- ⑤ C.C. Incoming (帰艇棧橋監視) 2名 ※1名
- ⑥ Boat Weighing (艇計量) 2名 ※1名
- ⑦ Athlete Weighing (選手計量) 1名
- ⑧ Finish Tower (判定補助) 1名
- ⑨ Swiss Timing Finish (判定計時システム作動) 1名
- ⑩ Start Tower (発艇補助) 1名
- ⑪ Aligner (艇揃え) 1名
- ⑫ Swiss Timing Start (発艇計時システム作動) 1名
- ⑬ Marshal 1 (水受け渡し棧橋) 1名
- ⑭ Marshal 2 (フィニッシュ付近) 1名
- ⑮ Marshal 3 (1950m 付近) 1名
- ⑯ Marshal 4 (1200m 付近) 1名
- ⑰ Marshal 5 (スタート棧橋) 1名
- ⑱ Marshal 6 (ウォームアップエリア) 1名
- ⑲ Marshal during Training (レスキュードライバーと同乗) 3名 ※3名

<大会前>

大会数ヶ月前に、NTO リーダーの Ana より最初の案内メールが届く。

内容は以下の通り

- *ユニフォームについて (NTO はポロシャツ 2 枚支給、下は FISA ルールに準じる)
- *パスポート番号の提供依頼
- *宿泊予定ホテルについて
- *空港到着日、滞在期間の確認
- *当日の連絡は主に「**WhatsApp**」を使用すること

大会 1ヶ月前に最終案内が届く。最初のメールの補足と、フライトおよび滞在期間を伝えていない人は伝えてほしいとの連絡。



WhatsApp とは

WhatsApp は日本でいう LINE のようなもので、審判間のコミュニケーションツールとして活用されている。単なる自己紹介や友達探しと違い、今回の場合、参加前に Ana により今回 NTO 参加メンバーのグループが作成され、重要な情報は事前に WhatsApp を通して流されている。もちろん、WhatsApp を使用できない環境のメンバーもいるため、シフト表、タイムテーブルの変更など重要な情報はメールでも流された。

この WhatsApp はアジアでも普通に使用され、大会時にグループが作成され、様々な情報が共有されている。昨年アジアジュニアでも使用されており、後程説明する「アスリートレーンセレクション」にも使われているので、スマートフォンをお持ちの方で海外審判参加の方は、事前にダウンロードしておくとお便利だと思う。

<5月30日(水)大会2日前>

ベオグラード、ニコラテスラ空港着、出口すぐにボランティアの少女2名がプラカードを持って待機していた。ホテルまではOCのメンバーが送迎、ホテル到着後、コースに向かう。



NTOの集合時間は翌日5月31日の16時だったが、現地NTOリーダーのAnaが中に入れるようにIDを渡してくれた。Anaとは今回初めて出会ったが、事前にFacebookでお互いの顔を見ていたため、すぐに認識してもらえた。

2日前ということで、まだNTOは集まっていなかったが、Anaが各部署を案内してくれた。

また、モーターでスタートまで乗せてもらい、スタートエリアを見学した。

コースブイ、スタート栈橋

コース上のブイ、スタート栈橋は仮設で、普段は下流に保管され、レース前に設置、レース後収納される。



<5月31日(木)大会1日前>

Boat Weighing(艇計量(事前計量))

NTO : 1名(事前計量の管理、GPSホルダー設置の管理)

ボランティア : 2~3名(GPSホルダー設置)

この日は16時よりNTOのミーティングだったが、合間を利用して艇計量部署を視察した。

大会前のいわゆる「事前計量」だが、この日までに全てのボートはGPSのホルダー(台座)を設置する必要がある。

GPSホルダーは艇種、タイプにより違い、設置するボランティアには事前に公式計時プロバイダー(今回はスイスタイミング、以下「ST」と記す)によりインストラクションが行われる。

クルーによっては、以前の大会で設置したホルダーがあったが、種類が違っていたり、古かったりしたため、全て取り外して新しいホルダーに付け直させた。(重さの関係もあるかと思う)



<6月2日(土) 大会2日目>

午前：Outgoing Pontoon(出艇棧橋)

ITO：2名(クルー(フォトブック・ID)、安全(ヒールロープ・バウボール)、禁止事項(無線装置)、広告(艇・ユニフォーム)等の管理)

NTO：2名(上記のサポート)

ボランティア：4名(出艇クルーにGPSとバウナンバーを取り付ける)

審判委員会：1~2名(監視部署、出艇棧橋全体の管理)

出艇クルーとフォトブックを照らし合わせてクルーを確認し、その間にGPSとバウナンバーを取り付け、ヒールロープ、広告を確認する作業だが、ピーク時は3~4クルーが集まり、また本来のルート以外から棧橋に入ろうとするクルーもいて、混乱必至の場所であった。自分がいた間にも2回バウナンバーの取り付け間違い、バウナンバーの取り付け忘れを発見し、出艇前に何とか間に合ったケースがあった。この部署は多くの目が必要であり、ボランティアとの連携が必要であると感じた。また、広告面ではバウナンバー横にテキストが描かれていたケースがあり、マスキングテープで見えないようにした。靴下は全員ばらばらなクルーもあったが、ワールドカップでは不問なのかは不明。



午後：Finish Tower (判定) ※見学

ITO：2名

上級判定員 (Senior Judge at the Finish, レースをSTのシステムで管理し、リザルトを確認・決定する)

判定員 (Judge at the Finish, 通過順を声に出して言う)

NTO：2名

ブザー担当 (フィニッシュラインを通過したときにブザーを押す)

通過順入力担当 (STのシステムに、テンキーで通過順を入力する)

OC：1名 (写真判定システムのスタートボタンおよび通過ボタンの操作)

ボランティア：1名 (中間地点の写真判定装置のクリック(バウボール)操作、通過順入力)

審判委員会：1名 (他フェアネス委員会1名 フィニッシュエリア全体の管理)

ST (Swiss Timing, システム管理、Finish 写真判定装置の操作)

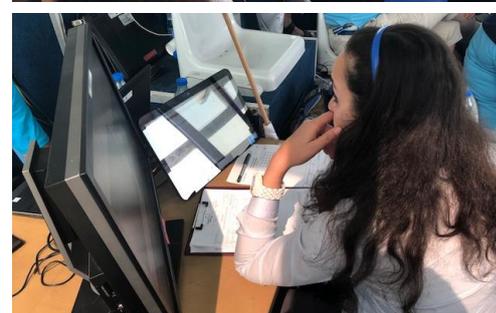
午後は本来艇計量であったが、今回判定部署のシフトが無かったため、Anaに頼んで判定部署を見学させてもらった。

フィニッシュタワーは特別なIDが必要であり、スポーツプレゼンテーション(実況中継)のフロア、判定のフロアがある、まずスタートと同時にシステムが発動し、時間がカウントされる。線審のNTOからの専用無線による「Go」の声を聞いてSTがバックアップシステムのスタートボタンを押していた。

スタートは日本のように全体放送でロールコールが流れることはなく、発艇エリアでしか聞こえない。

会場の間はアナウンサーの実況中継で、レースがスタートしたのを認識する感じである。

各中間計時小屋にはカメラとシステムがあるのみで、ボランティアやNTOなど人の配置は無い。カメラを見たFinish TowerのSTが通過順



を入力していく。

クルーがフィニッシュにさしかかると、ITO が通過バウナンバーを呼称する。「No.3、4、5、6、2、1」ブザー担当はフィニッシュラインを通過する度ブザーを押す。通過順入力担当はテンキーで通過順を入力する。OC が写真判定ボタンを押し、通過をスリットカメラで撮影する。

ボランティアは後方で中間地点の画像操作をし、地点通過順を入力する。

今回の OC とボランティアの作業は、全日本などで審判が行っている一連の写真判定の作業である。

レースは 5 分間隔のため、1 つのレースがゴールする前に、次のレースがスタートする。

判定長は ST のパソコンを見ながら、両方のレースの進捗、フィニッシュ通過順を確認する。そのためコースは見えていない。

結果はすぐにプリントアウトされ、上級判定員はリザルトシートの内容を確認した上でサインをし、「Race No. ○○, Official!」と言って着順を確定する。

<6月3日(日) 大会3日目>

午前：Judge at the Start (線審)

ITO：1名 線審 (Judge at the Start, 白ボタン操作、フォルススタートボタン操作)

NTO：2名

アライナー (Aligner, 艇揃え、必ず現地の人間が現地言葉でボートホルダーに指示)

ST システム入力 (フリーズボタンの解除と、次のレースナンバー入力、判定への合図)

ST：1名 (システムの管理)

ボートホルダー：12名～ (ボートを支える人、ステッキを動かす人 (全て地元クラブの子供たち))

ボトル、ごみ拾い：2名 (ペットボトルや水草の回収)

OC：1名 (ボートホルダーへの指示、管理 (おそらく地元クラブの人間))

この日は Ana の配慮でスタートエリア全てを見せてもらった。

まず、アライナーが現地言葉で艇を揃える。直接見るのではなく、システムの画面を見ながら揃えていく。

前方は「ナプレ」後方は「ナザード」ストップは「スタニ」と指示している。

揃った時点で ITO が白ボタンを押す。これは線審旗の意味があり、白ボタンが押されると NTO のシステム入力者が「White Flag」とマイクで判定に伝える。

このシステムはスタートと連動しており、スターターがスタートボタンを押す瞬間に画面がフリーズする。これによりフォルススタートがあった場合、どのクルーかを認識できる。ITO はロールコールの間、フォルススタートボタンに手をかけ、いざという時にすぐに押せるようにしていた。スタート瞬間のフリーズ画面は自動的に保存され、後で呼び出すことができる。

スターターの「Attention」と同時に NTO がマイクで Finish の ST に対し「Attention」と伝え、スタートと同時に「Go」と伝える。

無事にスタートが確認できると、フリーズ解除ボタンを押し、次のレース No.を入力する。





午前：Marshal マーシャル (スタートエリア)

NTO：2名

スタート桟橋 (スタートポンツーンにおいて、次のレースに入ってくるクルーが安全に入れるよう監視)

ウォームアップエリア (ウォームアップエリアの中間出入りが狭く、クルーが安全に行き来できるように監視)

午後：Start (発艇)

ITO：2名

発艇員 (Starter, 呼び込み、分読み、ロールコール、発艇ボタンの操作)

補助発艇員 (Assistant Starter, 呼び込みクルーを認識、ユニフォーム、ブレード、広告チェック、Zonal Umpire 時の U-0 業務)

NTO：1名

補助発艇員 (Assistant Starter, 呼び込みクルーを認識、ユニフォーム、ブレード、広告チェック、Zonal Umpire 時の U-0 業務)

カメラマン：3名 (スタートポンツーン2名、スタートタワー1名 (決勝のみ))

審判委員会：1名 (スタートエリア全体の管理)

補助発艇員は後方のウォームアップエリアから上がってくるクルーを認識し、ユニフォーム、バウナンバー、ブレード、広告等の確認をする。

呼び込みクルーの国名、レーン No. をスターターに伝える。

呼び込みレーンは Fairness Committee が使用レーンを決定し、審判各部署に無線により連絡される。今回は 6 杯の場合バウナンバーと同じレーンを呼び込んだが、3 杯でバウナンバーが 1~3 のクルーでもレーン 3~5、4 杯で 1~4 のクルーでもレーン 2~5 のように呼び込んでいた。

呼び込んだ後はまた次のレースのクルーの確認をする、レーンに入ったクルーも注視する。

クルーは飲み終わったペットボトルを桟橋のごみ拾い係にパスするが、水面に落ちてしまい、レーンに残ってしまうものもある。ボランティアが網ですくえない場合、入ってきたクルーに回収を依頼する。

2 分前になったら、「2 minutes」と言い、2 分前ボタンを押す。ユニフォーム不統一などの注意、イエローカードなどの警告を与える。例)「China, Traffic Rules Violation, Yellow Card」

警告後にボートホルダーがイエローマーカーを桟橋の真ん中、選手の見える位置に置く。





ロールコールの後「Attention」をコールし、赤ボタン、緑ボタンの次に押す。スタートが無事に行われたら、2分前解除ボタンを押す。

審判艇の位置は Final A のみダイナミック（通常追航）、Final A 以外はゾーナルであった。

途中 Fairness Committee よりレースを2分遅らせる指示があった。スターターがクルーに

「Attention to the Crews, 2 minutes delay.」と伝える。遅れた理由を尋ねると「TV rhythm Preparation」と言われた。

アスリートレーンセレクション (ALS)

ITO : 1名 (ALS 結果シートの承認サイン)

NTO : 2名

司会 (ALS のロールコール、発表 (声の大きい人が良い))

書記 (ALS のレーン記入、写真撮影、ST への送信)

ST : 1名 (確定組み合わせの印刷)

イベント委員会 : 数名 (ALS 全体の管理)

今大会から試験的に導入されたシステムで、**選手**がレーンを自ら選択できるシステムである。

今年のアジアカップでも取り入れたが、まず予選はランダムドローで決定し、その後の Event は直前の Event の通過順で、選手は好きなレーンを選択できる。これはあくまで「アスリート」のレーンセレクションのため、マネージャー、コーチが来ても選択は出来ない。選択するための資料として、通常のコースの風向図、当日の天気、風向、風速図などが貼りだされる。

ALS はレース 90 分前に行われ、選手は監視小屋の裏のテント (ALS 用に設置) に集まる。

開始 1 分前に NTO が点呼の意味でロールコールをする。

「Athlete Lane Selection Race No.135 Canada, Belgium, Russia, Serbia, USA, 1 minutes!」

開始時間になったら、前のレースの通過順に選手を並ばせて、レーンを選択させる。

選手は目の前のバウナンバーをとり、選択レーンを言い、それを NTO が書き留め、選手はその下にサインをする。通過順に最後のクルーまで選択が終わった時点で、ITO が承認のサインをする。

承認された記入用紙は即座に NTO によりスマホ撮影され、WhatsApp

にて ST に送られる。その後、NTO が選択結果のレーンを声に出して言う。時間に現れなかったクルーは後回しになり、最終的には「No Show」と記載され、1クルーであれば残ったレーン、数クルーいればその中で抽選でレーンが決まる。送られた用紙をもとに、判定部署の ST スタッフが最新の組み合わせを入力し、即座に各部署に送信、配布される。レーン決定から組み合わせ配布まではわずか数分であった。



<番外編>

今回は NTO としての参加だったが、2019 世界ジュニアの視察も兼ねて、空き時間に色々視察した。
以下、参考までに写真を掲載する。



インフォメーションセンター



OC Secretariat

送迎やホテルの問い合わせができる



FISA OFFICE



チームマネージャーズミーティング



Team Managers Manual



ボランティア用テント



ATM、両替機



スタートライン



シャトルバス、2台繋がっている



ホテルの朝食、夕食（ランチは会場でbuffet）



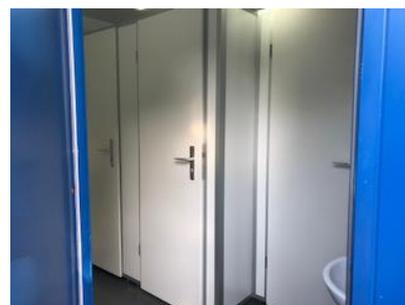
ホテルでデザートのカッキー



ボートラック



トイレ



女子トイレ内部



PR1 1X のポンツーン



1500mライン



CG 処理

ボランティアについて

今回のワールドカップ1戦のボランティアは105名（警備、セキュリティチェック、輸送、食事等のスタッフは含まず）。ほとんどが地元のクラブの子供たちであった。

うち15名は国外からのボランティアで自費で宿泊している。交通費も自費である。

ボランティアには水色のTシャツと白い帽子が支給され、IDホルダーはNTOとは別のものが支給されていた。

配置は見た範囲では以下の通り

空港送迎 2名（夜間はOCスタッフが担当）

インフォメーションセンター 2~3名（大人、語学力要）

FISA オフィス 2名（大人、期間中ずっと同じメンバー、語学力要）

ボートホルダー 16~20名（子供、ボート保持、栈橋操作、ペットボトル回収）

荷物預かり 5名（子供、荷物と引き換えにタグを渡す）

事前艇計量 4名（子供、GPSホルダー設置 ※スイスタイミングが指導）

出艇栈橋 4~5名（子供、GPS取付、バウナンバー取付）

帰艇栈橋 3~4名（子供、GPS、バウナンバー取外し）

メディアセンター 2名（記録配布、情報配布）

記録配布 5~6名（リザルト、組み合わせを各部署に配布する）

表彰式 15名（表彰式中のボート保持など）

他審判艇操縦、レスキューなど（大人）

※詳細のリストは現地ボランティアマネージャーのGabrielaより入手予定。



ボランティアの募集は6ヶ月前。トレーニングは6ヶ月前、3ヶ月前、大会作業日の3回。

各部門の担当者がトレーニングを行う。

セレモニーについて

合間に軽量級の表彰式が行われていたので、見学した。



表彰のバックドロップ（背景）はレース中ロールアップしてレースが見えるようになっている。

表彰栈橋にはボランティアが 5~6 名おり、クルーが栈橋に艇をつけるのを手伝い、表彰中はボートを保持していた。

さいごに

今回初めての NTO 参加だったが、事前に NTO としても国際審判としても、デビューであること、NTO の仕事について色々学びたいが、時間があれば 2019 年世界ボートジュニア選手権の準備として、色々視察したいことを伝えていたため、各部署でとても協力的に色々見せてもらえた。

会話は英語かセルビア語だったため、コミュニケーションが不安ではあったが、たとえ単語の羅列でも積極的に話しかけると、皆も話を聞いてくれ、話しかけてくれたので、思っていたよりは苦労が無かった。

今回、初の海外審判でわかったことは、曖昧な発言より自分の意思をはっきり伝える方が良いということだった。例えば「私が行こうか？ (Should I go?)」や「それ私がやった方がいい？ (Shall I do it?)」などの会話の後に「Do you want to go/do?」と自分の意見を聞かれる。

また、組み合わせが配布されなかった時、どこでもらえるか聞くと、インフォメーションにあると言われたので、今から取りに行くのと他の NTO に伝えると「じゃあ私も」「私の分も」と頼まれる。誰かがやってくれるだろうと待っているのではなく、どんどん動かなければならないと感じた。

また、ランチの時間帯が決まっているが、部署の人数がぎりぎりだとお昼を食べそびれてしまう。これも、自分が何時に行くから、交替でランチに行こうとある程度決めて話しておくことも重要だと思った。

2020 年を控え、日本にボランティアで来たいと考える NTO も数人いた。国際審判としてはリタイアされている方も、ドライバーで行きたいと言っていたり、今回 NTO リーダーの Ana も 2020 年のボランティア募集ページが開設したらすぐに登録したいと言ってくれた。とても心強いことだと思う。

今回このような機会を与えてくださった関係各位、セルビアボート協会に深く感謝申し上げたい。